

# 中央大学理工学部 電気工学科同窓会々誌

第 20 号

あいさつ  
会長 鈴木克郎

同窓生の皆様には、益々御健勝にて御活躍のこととお慶び申し上げます。

早いもので、電気工学科第一回卒業生は今年で卒業三十年目を迎えます。本同窓会も発足以来二十七年目を迎えることになりました。

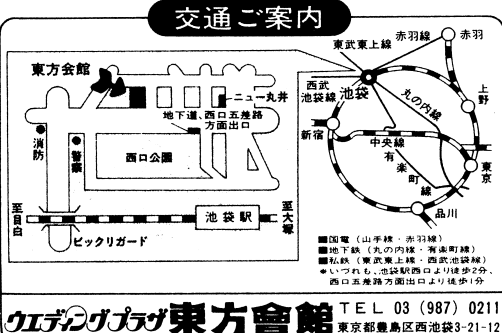
この間、母校は校舎の新築、研究室の整備等も成り、質・量ともに向上の一途をたどっていることは、大変御同慶の至りであり、本同窓会も母校の発展とともに成長し、会員も発足当時の約一四〇名より、五十八年卒業生を迎え約三五〇〇名を数える程になりました。

また、同窓会の運営、活動につきましても一応の成果を得てきたものと考えられます。これは一重に、諸先生をはじめ歴代会長、同窓会幹事の一方ならぬ御尽力と、同窓生の皆様の御協力のたまものであると感謝している次第です。

しかし、約三十年を迎えた同窓会は、これを人間にたとえ、仕事盛りの活力ある青年に成長していかねばならない訳ですが、財政基盤の脆弱性もあって活動には自から制約をうみ、年令にふさわしい成長をとげているとは云えない段階にあるものと認識されます。従いまして、今後皆様の深い御理解と御協力を仰ぎ、常任幹事会ともども同窓会をさらに発展させていきたいと考えております。

最後に、来る七月二日、池袋東方会館にて昭和五十八年度総会（第二十七回）を開催致します。近年出席される顔ぶれが大体決っている様に見受けられますが、同窓会は同期生の横のつながりを強め、先輩後輩の縦のつながりを深める良い機会でもありますので、同窓会の発展のためにも、ぜひ周囲の同窓生をおさそい合せの上、出席のだけ多数の皆様が御出席下さるようお願いする次第です。

発行元 〒112  
東京都文京区春日1-3-27  
中央大学理工学部電気工学科  
TEL. 03-813-4171(内)531



TEL 03 (987) 0211  
東京都豊島区西池袋3-21-12

## 昭和56年度会計報告

収入の部	
前年度よりの繰越金	1,993,215
56年度総会々費	609,000
預貯金利息	19,643
名簿売上代金	23,200
終身会費	784,000
寄付金	0
計	3,429,058
支出の部	
56年度総会費	382,515
通信及び印刷費	444,370
アルバイト代	42,560
事務・運営費	65,925
名簿関係	0
印刷費	0
通信費	0
アルバイト代	0
事務費	0
慶弔費	0
記念事業費	0
次年度繰越金	2,493,688
計	3,429,058

会場 東方会館(池袋)

03-987-0211

日時 七月二日(土)十七時〜十九時半

会費 五〇〇〇円

ご同伴 三〇〇〇円

58卒 四〇〇〇円

世話人 33卒業生

(電)〇三(813)一四一七(内)五三二(市川)

総会・懇親会に集まろう!

# ごあいさつ

電気工学科主任 遠藤 正雄

卒業生の皆様には益々御活躍のこととお慶び申し上げます。中央大学は昭和六十年で創立百周年を迎えることになり、現在の記念事業の準備が着々と進行してまいります。その基本計画は、(一)教育研究条件の整備 (二)国際交流の強化 (三)学員との交流の強化の三項目が柱になっております。国際交流の強化の具体案としては、多摩校舎に国際交流センターを設置し、学術・文化・人材の国際間交流の積極的推進を計り、より開かれた大学をめざしてまいります。また学員との交流の強化には神田駿河台にある学生会館をその地の利を生かし、中央大学百周年記念館(仮称)として建設し、学員との交流並びに研究・教育用施設をも含めた多目的利用の施設とする計画です。

我々理工学部電気工学科同窓会も今年で三十周年を迎え、その間約三五〇〇名の同窓生を世に送り出したことになりました。社会の我が電気工学科に対する評価も益々高まりつつあります。これも卒業生諸兄の御活躍の賜であり、同窓生の一員として御同慶にたえません。

このことは、産業界の電気工学科卒業生に対する需要が多いことと相俟って、電気工学科の入試受験生が益々増加していることから明らかであり、特に今年には理工学部全体としても近年にない増加率を示しました。

しかし、一方では偏差値だけでは、生徒の能力を評価することができない事も事実で、意欲ある優秀な生徒を受け入れるべく明春より推薦入学を実施する運びとなりました。このことは時代の趨勢とは云え、電気工学科としては大きな改革の一つであり、その成果が期待されています。

さて、同窓会の規模も年々大きくなり、事業、運用両面で大変になっていきますが、会長を初めとする常任幹事の皆さんの御努力により益々充実したものになってきています。例えば、在校生諸君、特に4年生に対し、毎年先輩をお招きして講演会を開催し実社会のお話と同窓会のP.R.をして頂き、成果を上げています。今後講師としてお願いしました折には、よろしく御協力の程をお願い致します。また各卒業年次毎に幹事一名選出し、連絡等に当って頂くようお願い申し上げます。どうか皆様の積極的な御支援をお願い申し上げます。この紙面を借りて常任幹事の皆様には心から厚く御礼申し上げます、私の挨拶と致します。

# わが クラス会 松本 清二

私共は三十二年の卒業ですが、卒業後十年目に第二回のクラス会を開催して以来毎年一回秋に行っており、そのクラス会を紹介いたします。

第一回のクラス会は卒業一年目に開きましたが未だ若い時なので、時間的、経済的に余裕がない為か集りが悪く毎年開く事が難しい状態なので暫く休むことにしました。そして卒業十年目の四十二年に第二回を開きましたところ集りもよく今後は毎年開催しようということになりそれ以来毎年続けております。

昨年は卒業二十五周年で伊藤隆君(ナショナル電子オルガン)の幹事で吉久先生をお迎えして渋谷の馬肉店で開催しました。このように長く続けられた秘訣は青木国吉君(フクダ電子)という名幹事がおりましてよく面倒をみられた事です。そして矢張り十年目に二回目を行ったことでそれ以後は出席者が少くない時でも必ず開催したことです。再開後三回は青木君の幹事でしたがそれ以後は青木君は名譽幹事となり幹事は輪番制で二人が相談して行います。が開催日、店、会費等は一任でやっております。

私共も今では五十才前後でクラス会が今後益々楽しくなる年頃になりました。時には一泊旅行もしております。今年には沢田義弘君(榊田村電機製作所)の幹事で行なわれますが今から開催通知のくる日を楽しみにしております。

これを機会に今迄出席されなかった人も是非出席されて楽しい一夜を過ごそうではありませんか。卒業生の皆さんもクラス会を持ってはどうでしょうか。同級生の深いつながりが出来ることにより電気科の同窓会もより楽しくなり益々栄えるのではないでしょうかと

(32卒)



# 卒業して十六年

萩野 征治

この文章を書くに当って、まず簡単な引き算をしてみました。「58-42=16」そうです中大をルンルン気分です卒業してから16年

もたってしまつたのです。今度は別の引き算をしてみました。「60-38=22」わあ！っ大変！サラリーマンもあと22年したらクビになる。大変だ。大変だと思ひながら右手にペンをもち、左手に

なぜかウィスキーグラスを持つてしまいました。左手をちょっと動かしてから落ち着いて考えてみることにしました。私が入社した時はまだゲルマニウムトランジスタを使った回路を設計して

いました。ところが今では、マイコン、汎用LSI、カスラムLSI、SCF、FFT、PCM・・・よくもまあ落ちこぼれず歩んできたものだと思います。(ここで乾杯！)

私はこの技術の嵐の中を生きのびるために常に心掛けていることがあります。それは今はやりの言葉でいえば、「頭の中を低エントロピーに保つこと」です。即ち、何んでも新しい技術、理論が出てきたらまず自分なりに理解(誤解でもよい)してしまふことです。

そうすれば、あせりや不安などの精神的ストレスもなく、「あいまいさ」の少ない状態、即ち低エントロピーのさわやかな気分を過ごせます。私の経験では技術の絶対値はともかく技術変化の微分値は結構小さいものです。何しろ計算の上では、毎週一つづつ新しい事を吸収すれば一年間で52、十年間で520の新技術が得られます。

自分の専門領域以外のものは世の中の頭のいい人達が寝ないで考えた事を寝ながら吸収すれば良いのですから楽なものです。これから10年後、20年後にも落ちこぼれず何んとか新しい技術にフォローしていたいものです。(ここでさらに乾杯！)(42卒)

# 研究室紹介

篠田 研究室

私の研究室では、回路とシステムに関する解析、制御、診断、設計の諸問題に対処する手段とそれを支える基礎理論の研究を担当しております。私自身の最近の仕事は、東海大学電気工学科の山口功助教授(昭和40年3月中央大学電気工学科卒)との共同研究で「線形アナログ回路の故障診断の方法と理論」に関して種々の成果を導くとともに、新潟大学情報工学科の仙石正和助教授(大類教授御令嬢の夫君)との共同研究で「ネットワークにおける点の中央らしさを表わす関数の特徴づけとその応用」に於いても種々の成果を導き、それらの成果を国内外の学会を通して公表しつつあり、学会の雑業としては、計測制御国際会議(昭和59年10月東京開催)の実行委員

会総務、回路とシステムに関する国際会議(昭和60年6月京都開催)の広報委員長などを務め、忙しい毎日を送っています。

今年の研究室のスタッフは小堀真奈美技術員、古木勝也大学院2年生ならびに19人の卒業生で、私の当面のテーマである。

① 並列計算に基づくコンピュータアルゴリズムの設計

② 並列情報処理方式の論理設計

③ マイクロコンピュータネットワークの高信頼度設計

④ グラフ・ネットワークアルゴリズムの解析と設計

⑤ 電子回路の故障診断と故障検出の方法と理論の構築

⑥ 合併と提携による集団の優位性の安定性に関する構造解析

⑦ 集団意志決定への新しい方法の設計

⑧ エレクトロマグネティックポロジ(ブラムの理論)と

VL SI設計

などに対して適当なグループに分け、研究を行なっていくと考えるております。しかし、卒業生に対しては、何に對してどれだけ新しい結果を出すかではなく、疑問に答えようとしてどのよう努力するかが第一義的に重要で、その努力を通して、たとえ学問的に新しい知見が得られなくても、種々の知識を身につけ、良き友人を得、「研究とは」という匂いを感じていただければ十分と考え、指導して行こうと考えております。同窓生諸氏の暖かい御支援をお願いいたします。

△現在の研究室内研究設備 V  
MS・50形のNEC小形コンピュータとそれに接続されたグラフィックディスプレイ一式  
(篠田記)

# 同窓会に入会するにあたって

58年 卒 小堀真奈美

桜の花も散り、みずみずしい新緑と共に、そろそろ理工学部校内の空気も落ち着きを見せてきた今日この頃であります。同期で社会に出た人たちは、まだ研修の最中でしょう。もう少し経ちますとポツリポツリと学校へ元気な姿を見せてくれることと思います。私自身は、技術員として諸先生方のお手伝いをする事になり、大学に残りましたが、いざれば、大学という保護下から巣立つ時が来ます。その時に同窓会の諸先輩方の有意義なアドバイスを受ける機会も多い事と思います。同窓会という大きな集いの中で、世に出られた色々な立場の方々の御意見に接することができる、そんなチャンスに恵まれることと期待しております。

私たちのような社会人一年生は、とかく大志をいだいて世の中に、若者特有の自己中心的な考えの尺度で、物事を決めがちです。当然うまく行かず、自分に対する苛立ち、あせりを味わうことも応々にして生じることと思います。しかし、どのような苦辛経験も私たちの前を常に歩んでこられた諸先輩方と親睦を深めることで再びその難問に向かわせるパワーを蓄えられることでしょう。そしてそんな経験をいつかは、自分自身も同窓会の後輩のお役に立てるようになりたいと思えます。このように、先輩から後輩へと心の通った真のつながりを持てる集いが電気工学科同窓会であるべきですから、私も一会員という立場を再度認識し、その目的を運営していくために微力ですが、協力して行きたいと思えます。宜しく御鞭撻のほどお願い致します。

## 昭和五十七年度総会開かる

五十七年度総会ならびに懇親会が七月三日(出)航空会館スエヒロにおいて開催されました。

総会においては、吉江会長に代って第一回卒業、電源開発勤務で開発計画部長の鈴木克郎氏が推せんされ就任しました。当日の懇親会には夫人同伴を含めて一一八名の出席がありました。なお、吉久先生よりお祝をいただきました。ありがとうございました。この会の開催にあたっては、芝電機機の同窓生諸兄に計画から実施まで大へんお世話になりました。

# 新聞社に入社して 小林 浩

中央大学を卒業して読売新聞社に入社して以来二年の歳月が経ちました。

私が新聞社に入ってまず驚いたのは、体質の古さと労働生産性の低さでありました。日本の世論を代表する三大新聞の一つでありながら、少しづつ社内事情を知ってくるにつれて体質の古さというものをしみじみ感じてくる次第です。この原因は何かと考えてみますとやはりどの新聞社でも言える事ですが社員の平均年齢が四十歳前後という異常な高齢からくるのではないかと思います。他の業界の事は、殆んど知りませんが新聞や雑誌から得る情報ではもっと新しく活気に満ちたものを想像してしまいます。しかし、最近になって新聞業界では脱鉛化という事で作業環境の改善を計り、もっと魅力のある職場にかえ様としてコンピュータの導入を考えています。残念ながらこの事では、朝日をはじめ地方紙などにも我社は大分遅れをとっているのが現状です。

今度私も、今迄の電気関係中心の仕事からこの新聞業務をコンピュータ化する事に配転が決められました。今は、この仕事に精一杯頑張るつもりです。(此 好 卒)

## 編集後記

一つまとめて物を出すというのは、きわめて困難であるということがわかりました。今回は各奇数年卒業のみなさんにお一人づつ投稿を依頼いたしましたところ、企業産業に勤務するみなさんが、いかに多忙であるかが知らされました。次回は偶数年卒業の一人に早めにニュースをご提供いただけよう準備いたしますのでご協力の程よろしくお願い申し上げます。

最近仕事を転職される方も多いうので、この新聞をご利用いただいても効果多大と思いますが、同窓各層の声を期待します。

(市川記)

### 受賞おめでとうございます

小林一哉先生  
丹羽記念賞 58・2・28  
電子通信学会学術奨励賞 58・4・3

### 結婚おめでとう!

菊地 章 院 55 卒 NEC 57・10・23  
平岡 敬尚 院 55 卒 日産 57・11・15

### 訃報

山下美雄先生夫人 逝去 58・5・2